



徳丸 渡部喜代隆

随想 ガン

ガンは昔から不治の病としておそれられている。ガンに対する医療も日進月歩でめざましい進歩をとげているが日本人の死亡原因の3分の1がガンによるものだと言われている。まだまだガンと言えは死の宣告のように思われている。

私が第1回目にガンだと言われたのは、今から10年前である。55歳で上浮穴郡の黒藤川小学校へ転勤した1年目の終り3月に人間ドックに検査入院した。四国中央病院は早くから内視鏡による検査がドックに取り入れられ多くの異常を発見していた。私も40歳

代から3年に1回はドックで検査を受けていたので今回も骨休めと息抜きぐらいの気持ちで入院したのだった。

下剤をかけ胃、腸を洗浄し肛門からそう入したカメラで腸の内部を画像に映し検査していくのである。医者どうしの会話を聞かえてくる。「もう少し後。もっと右、左」とか「転移していないか?」とか。『転移?』という言葉にまさかと思っていたが、後の説明によると、『れっきとした大腸がんがあります。初期の段階だから今なら間に合う、直ちに手術を受けなさい』と言

われた時は青天のへきれきで頭の中が真白になった。まさに死の宣告を受けたのである。気持も動転している中『今なら間に合う』と言われた言葉が何よりの救いで間に合うことを信ずる外はなかった。紹介状を持って松山赤十字病院で手術を受けることにした。

4月になり黒藤川小学校2年目に入っていた。

いよいよ手術のため全身麻酔をかけ、妻や子どもたちの見守る中、絶対に回復するのだ、という思いと、もうダメかも麻酔がもたらさないで永久にあの世に行ってしまうかも?という不安が入りまじり、1、2、3と数えていくうち何も

分らなくなった。『渡部さん』という声でふと気がついた。「手術は成功しましたよ」といわれて、生きているんだという実感がわいて来た。

2回目は定年退職後4年目で西公民館時代だった。前立腺ガンは血液検査で疑いがあるので、組織を取り精密検査でガン細胞が見つかった。「今ならなおる」と言われ手術を受けた。

ガンの告知を2回受けたがいずれも初期だったことが何より幸いした。早期発見の大切さを思っている。

1歳ですよろしく



崇斗の笑顔は世界一。いっぱい遊んで、いっぱい笑おう!

佐々木崇斗くん
(西古泉)
平成16年6月2日
父 裕 さん
母 あかり さん



元気いっぱいの亜美ちゃん、心優しい女の子に育ってね!

松居亜美ちゃん
(筒井)
平成16年6月1日
父 佳彦 さん
母 美保 さん



早く歩けるようになってお姉ちゃんとお散歩しようね。

勝田恵理子ちゃん
(筒井)
平成16年6月14日
父 泰生 さん
母 幸恵 さん



あーくん(兄)大好き。ずっと仲良しでね!!

吉田芽央ちゃん
(筒井)
平成16年6月2日
父 将昌 さん
母 明子 さん



明るく元気に育ってね!!これから楽しい思い出いっぱい作ろうね

麻生有莉ちゃん
(恵久美)
平成16年6月20日
父 浩司 さん
母 静保 さん



大きく元気な子に育ってね。みんなの宝物だよ。

武智生真くん
(北黒田)
平成16年6月15日
父 貴勇 さん
母 友紀 さん

7月に1歳になられるお子さんの写真を募集しています。背景が明るい写真をお持ちのうえ、7月1日(金)~11日(月)の執務時間中に役場3階総務課秘書広報係へ(先着6名まで)。